令和８年（2026 年）11 月６日

保護者の皆様

札幌市立太平小学校
校　長　田中　徳光

全国学力・学習状況調査の分析結果と改善策について

今年度６年生を対象に行われました、全国学力・学習状況調査についての分析が終わりましたので結果をお知らせいたします。

この結果をもとに児童の実態の傾向を把握し、今後の指導に生かしていきたいと考えております。２年生以上で行われている学力検査、行事ごとに行われている教師による子どもの育ち交流、児童アンケート、保護者アンケートなどを考慮し改善点として生かしていきたいと思います。

国語

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
□**「話すこと・聞くこと」の平均正答率** 全国の平均を下回っている。	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	スピーチや発表の場面において、写真や動画等の資料を効果的に活用させ、表現の工夫とその効果について対話によって思考を再構築する活動を設定する。
□**「書くこと」の平均正答率** 全国の平均を下回っている。	●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。 ●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	【構成メモ】等を活用して課題に見通しをもたせ、集めた情報や資料を正確に引用して記述する指導を行う。ルーブリックによる相互点検（自己選択・自己決定）を取り入れ、推敲活動を充実させる。
□**「読むこと」の平均正答率** 全国の平均を下回っている。	●目的に応じて、必要な情報を見付けること。	問いや収集目的に合わせてキーワードに着目し、必要な情報を正確に読み取る指導を徹底する。読後に自分の考えを整理・記述させ、自分の学びの進捗や成長を自覚させる。
□**「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率** 全国の平均を下回っている。	●比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	朝学習や日常の国語の時間において、比喩や反復などの表現技法とその効果について話し合う場面を設定し、語彙・表現にかかる基礎基本の充実を図る。
□**「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率** 全国の平均を下回っている。	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	図やメモを活用して語句相互の関係を可視化・分類させ、相手や目的に応じて情報を再整理・共有する協働探究の学習場面を取り入れる。

算数

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
□「数と計算」の平均正答率 全国の平均を下回っている。	●四捨五入による概数処理、小数の計算、異分母分数の大きさの比較や十進位取り記数法の仕組みを理解して正しく処理できる。	全校一斉計算テストや朝学習を活用して計算技能の定着を図りつつ、数直線などの視覚的モデルを用いて数の仕組みの概念理解を深め、立式の理由を説明させる。
□「図形」の平均正答率 全国の平均を下回っている。	●直方体や立方体を構成する面や空間的な特徴に着目し、一辺の長さから体積を求める式や説明を記述できる。	具体物（立体模型）の操作や作図活動、Chromebook等の活用を通じて空間の性質や公式の意味を体験的に実感させ、求めるプロセスを筋道立てて説明・記述させる。
□「測定」の平均正答率 全国の平均を下回っている。	●1立方センチメートルの単位立方体が幾つ分あるかという体積の基本的な意味を理解して表すことができる。	1cm³の単位立方体を組み上げる具体物操作を行い、「課題を自分事として捉える」体験的学習を通して、「体積＝単位が幾つ分か」という本質的意味のイメージ化を図る。
□「変化と関係」の平均正答率 全国の平均を下回っている。	●割合における基準量を求めたり、単位量あたりの大きさを用いて混み具合等を比較・判断し、その理由を説明したりできる。	関係図や線分図を用いて数量関係を整理させ、ペアやグループでの比較・検討を通じ、対話によって解き方や立式の理由を解き合わせる授業を展開する。
□「データの活用」の平均正答率 全国の平均を下回っている。	●二次元の複雑な表から条件に合うデータを正しく読み取ったり、複数の表の矛盾点を見つけて根拠を説明したりできる。	複数の表やグラフから目的の数値を抽出し、根拠を示して正誤や判断理由を説明する探究的課題を取り入れ、自分の学びを振り返り高める指導を充実させる。

児童質問紙調査の分析結果（本校の実態）

【本校の強み・成果】自己肯定感と相互承認の深まり

- **自律的な自己承認と高い自己肯定感**：「自分にはよいところがある」と感じる児童の割合が全国平均を上回っています。
- **心理的安全性と受容的な風土（相互承認）**：「学級では、人と違う意見を言っても否定されない」の肯定率が全国平均より高く、互いの違いを尊重し安心して発言できる環境が整っています。 また「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じる児童も多く見られます。
- **思いやりと貢献意識（縦割り活動の成果）**：「人が困っているときは進んで助けている」割合が全国平均を大きく上回っています。 本校の『はるにれ活動（縦割り活動）』等を通じ、上級生が下級生を優しく支える中で貢献の姿勢が芽生えています。
- **教員や大人への相談しやすさ**：「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」割合が全国平均より高くなっています。

【課題・改善を要する傾向】学習の言語化と生活習慣

- **算数への理解実感と言語化の不足**：「算数の授業内容がよく分かる」実感の割合が全国平均を大きく下回っています。また「授業で考え方を説明する活動」も不足しており、自分の思考プロセスを言葉で表現・アウトプットすることに課題があります。
- **個別フィードバックの不十分さ**：授業やテストで間違えた箇所について「分かるまで教えてくれた」「どうしたらできるようになるか教えてくれた」と感じる割合が全国平均を下回っています。
- **基本的生活習慣とメディア時間**：毎日の「朝食摂取」の割合が全国平均より低く、平日に「スマホや動画視聴等を 4 時間以上行う」児童の割合が全国平均の 2 倍以上となっています。

学校における改善の方針（学校の見解）

本校児童の最大の強みは、異学年交流（はるにれ活動）等で培われた「相互承認の感度」と「他者への思いやり」です。学級内で人と違う意見を言っても否定されない安心感の中で子どもたちは成長しています。

今後は、この受容的な学級の雰囲気を日常の授業（特に算数科）に生かし、本校の「『学ぶ力』育成プログラム」の柱である「対話によって思考を再構築する力」や「自らの学びの進捗を自覚する力」を高める指導を展開します。ペアやグループで「なぜその解き方になるのか」を安心して説明し合える環境を整え、基礎基本（計算テスト等）の定着と丁寧な個別添削に努めてまいります。

御家庭と一緒に連携していきたいこと

	御家庭での具体的な取り組み内容・お願い
① 毎日の「朝食」の徹底	午前中の脳の働きと集中力を維持する基盤となります。決まった時間に起きて「毎日朝食を食べて登校する」習慣づくりに御協力ください。
② メディア利用ルールの見直し	スマホ、ゲーム、動画視聴などの長時間利用（4 時間以上）は、睡眠不足や集中力低下につながります。家庭内で「利用時間」や「就寝前の使用制限」などのルールを改めて話し合ってください。
③ 理由を問いかける会話の工夫	家庭での会話や宿題の際、「どうしてそう思ったの？」「どうやって解いたの？」と優しく理由を聞いてあげてください。自分の考えを言葉で表現する（言語化する）良い練習になります。
④ つまずきに寄り添う温かい見守り	テストや宿題で間違えた際も成果を認めつつ、「どこでつまずいたかな？」と一緒に振り返り、やり直す姿を認めてあげてください。

学校と家庭が手を取り合い、子ども一人ひとりの「学ぶ力」と「豊かな心」を育んでいきたいと考えております。 引き続き温かい御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。